

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100078		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム大久保		
所在地	千葉県習志野市屋敷3-1-12		
自己評価作成日	平成29年11月 3日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成29年12月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1回にデイサービス、2,3階に有料老人ホームを有した4階にある1ユニットのグループホームである。その4階からの眺めは素晴らしく、朝に夕に富士山を望む事ができ、入居者の方々も楽しみにしている。ホームは入居者数が9名と少人数であり、一人ひとりとじっくり関わり合いながらケアを行う事ができる。そして、家庭的な雰囲気で行生活することができる事も利点である。また、町内会の方々が月に一度来訪しカラオケ会を開催したり、ホームの行事に唄や踊りで参加されたりして下さり、入居者様も町会の桜祭りや夏祭りにお連れしたりと、開設当初から地域の交流は大切に続けている。これからも地域に根ざしたホーム作りと明るく清潔感のある環境作りを心掛け、入居者皆様に寄り添い、安心して生活して頂けるよう努めていきたいと思っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「自分に出来る事を見つけよう・そして続けていきましょう」という理念を意識して利用者に関わっていることがうかがえる。できるところはやってもらうという考えのもと、持てる力を引き出し維持に努めようと支援している。職員は日常の中で、利用者が体を動かすことができるように努めている。また、できるだけ毎日の生活に変化をつけるように、ドライブや外食などに出かける機会を持つよう心がけている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分に出来る事を見つけよう・そして続けていきましょう」との理念を一人ひとりが共有しており利用者が出来るだけ自立した生活を続けられるよう努めている。	シンプルで分かりやすい理念は管理者と職員で話し合い、実践につなげており、利用者の持てる能力を引き出すようなケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、祭り等の行事で交流している。町内会カラオケクラブの方々と月に1度ホームにて合同カラオケ会を開催し、ホームでの行事等にも町会の方々が参加している。	町内会や町会長などからの情報により、地域のイベントに出かけており、町内会の夏祭りにも参加している。3年間連続して中学校の「福祉体験学習」を受け入れるなど、地域との関係が広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に於けるイベントへ参加し、地域の方々との交流を図り認知症に対する理解を深めてもらう。ホームでの行事に地域の方々も参加して頂き施設への理解を深めていただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に推進会議を」開催しホームの現状やサービスの取り組み等を報告している。構成委員の方々のお話やご意見に耳を傾け、よりサービスの向上に努めている。	運営推進会議は年6回開催しており、場合によっては併設のデイサービスセンターと合同で行うこともある。介護相談員、町内会会長、地域包括支援センターなどの出席がある。家族会に合わせて開催することが多く、家族の参加も多い。	議事録は報告事項が主になっている。サービス向上に向けて更なる意見交換と意見を活かした取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の向上連絡会及び地域包括センター主催の会議に出席しており各事業所の取り組み等について情報共有や意見交換を行い協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議には地域包括支援センターが出席している。また、市や地域包括支援センターが主催する会議に出席し情報交換をしている。この他、市の介護相談員を受け入れ、利用者の情報を共有するなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は外部、内部いずれかの研修等で言葉による拘束も含め身体拘束について正しい理解が出来る様にしている。ホームは4階にあり階段は施錠しているが職員は常時鍵を携帯している。	年間の研修計画があり、月1回の内部研修で「虐待・拘束をしないケア」について学んでいる。また、言葉かけについては日頃から話し合って意識するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について研修を受け言葉の虐待を始めケアの中に虐待に値する様な行為がないか、職員全員がお互いに注意を払い虐待の防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の際に、学ぶ機会を持つ様に努めている。成年後見人制度を利用していた入居者がいた事で学ぶ機会を持つ事ができた。これからも活用に向けて役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には不安や疑問が無くなるまで十分な説明を行い安心して入居して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会や2ヶ月に1度の運営推進会議等で、家族の意見や要望を聴く機会を設けている。又面会時等に家族から直接意見や要望を聴きそれらの意見を職員間で話し合い運営に反映させている。	年2回の家族会や運営推進会議など、家族が意見を言える機会を設定している。利用者の意向は日常的に把握に努め、意見や要望については反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や毎日の申し送り等で職員の意見や提案を述べる機会を設け意見交換を行っている。又日頃から職員とのコミュニケーションを取るようしており、話しやすい環境づくりを心がけている。	ホーム会議で管理者と職員が意見交換しており、運営面についても提案があれば話し合っ反映に努めている。また、法人の代表とも話し合う場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力や実績、勤務状況を常に把握しており、職員がやりがいのある働きやすい職場環境を作り、各自が向上心を持って働ける様条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの持てる力を把握し、毎月行われる社内研修への参加を促す。働きながらトレーニングしていく事を進め技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の向上連絡会や地域包括支援センター主催の会議等に出席の際、同業者との交流する機会を作っており他事業者の取り組み等の意見交換を行いサービスの質の向上に役立てている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた家を離れる事又家族と離れての生活に大変不安を感じていると思われる。本人が不安な事、困っている事、要望等に耳を傾けこのホームが安心して生活できる所だと心理して頂ける様努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に感じている事、困っている事、要望に耳を傾け信頼できる関係を築ける様に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族双方の話を傾聴し必要としている支援を正しく把握するように心掛けている。又その他のサービスをも含め対応できる様努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を支援支援される一方の立場に置かず、日常生活の中で食後の片付け、洗濯物をたたむ等本人が今出来る事を自然に手伝う家族の様な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を最も理解しているのは家族である為本人と家族の関係を大切に家族の協力を得て共に本人を支援していく様に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら一時帰宅や美容院等に行く利用者もあり、これまで大切にしてきた人やいきつけの場所との関係が継続できるように努めている。	友人や知人がホームを訪れる事は少なくなっているが、家族の面会はよくある。また、家族と一緒に墓参りに行ったり、行きつけの美容院に行く利用者もいるなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりの気持ちを尊重しながら孤立することなく適度な関係が持てるよう、体操やレクリエーション等への参加を促す支援に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて本人・家族からの相談があった際には、親身に対応するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から生活歴、生活習慣、趣味、意向等を確認している。また、入浴時やリビングでくつろいでいる時間を利用して、本人の思いや意向の把握に努めている。	入居時に本人と家族の意向をよく聞き、利用者が発した言葉や行動から、利用者の気持ちを探りながら、思いの把握に努めている。得た情報は、申し送り時に職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から入居前の生活歴、暮らし方等を確認し、出来る限り今までの生活に近い過ごし方をして頂ける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の様子を観察し、心身状態等現状を申し送り等で職員間で共有しその方にふさわしい過ごし方が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が入居者の方々の情報を共有して、一人ひとりのケアのあり方について検討している。又家族の面会時等にも意見を伺い現状に即した介護計画を作成し実践出来るよう努めている。	聴き取った利用者の思いや意向、職員の気づき、介護記録等の情報を基に、介護計画を作成している。隔月開催のホーム会議でカンファレンスを行い、3か月毎にモニタリングし、半年毎の担当者会議や状態変化時に、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子は個別毎の記録に記入し申し送り等で職員間で情報を共有して適宜見直しを行い実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族の状況を把握し、新たなニーズには出来る限り柔軟な支援やサービスの提供を心掛けるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の趣味や得意分野を見出すように努めている。又繋がりを継続し安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけ医の往診がある。専門医を受診する場合は家族に連絡し依頼があれば職員が同行している。かかりつけ医とは日頃から連携がとれており適切な医療を受けられるように支援している。	月1回の提携医による訪問診療、週1回の看護職員による状態確認の他、必要に応じて訪問歯科診療を受けている。かかりつけ医および専門医への定期通院は家族が対応するが、家族が対応困難な時などは職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常的に入居者の体調について看護師に連絡・相談が取れるように体制を整えてあり個々の利用者が適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療ができるよう、又早期に退院できるように入院時に介護サマリー、退院時に看護サマリーにて病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて説明している。食事が摂れなくなってきた等の状況に応じて家族へ説明し話し合いの場を持つこととしている。利用者・家族の意向に寄り添いかかりつけ医と連携しながら終末期に向けた支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた支援について説明し、文書にて意向を確認している。状態が変化した場合は再度家族等の意向を確認している。看護師とは24時間の電話対応可能となっている。今年、提携医および看護師の指示のもと、職員が連携して看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時には的確な対応が出来るようにマニュアルを作成し、職員が周知している。看護師から常に適切なアドバイスが受けられる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い利用者、職員が参加して全体訓練を行っている。独自に夜間を想定した訓練も行い避難誘導、初期消火等安全に対応出来るよう努めている。地域には災害時の協力をお願いしている。	同一建物内にあるデイサービスおよび有料老人ホームと合同で、年2回避難訓練を実施している。消防署の指導により独自の避難マニュアルも作成し、夜間を想定して、消防署到着まで安全に待機する訓練も行った。	利用者が重度化しており、地震等の災害時に階段を利用しての避難が困難になりつつある。備蓄も含め、法人本部とも検討のうえ、有事に備える対策をとることを期待したい。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、接遇、マナーの研修を受けており入居者の人格を尊重し、個々の思いや要望を大切に誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	一人ひとりのプライドやプライバシーの保護を大事にし、研修でも学んでいる。管理者は職員の声かけなどについて現場で気づいたことがあれば、その場で一緒にどのような声かけがよいのか考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を話せるような雰囲気や日常的に作り自分で納得しながら暮らせる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを把握し、ホームの決まりや都合を優先するのではなく、なるべく入居者と向き合いその方に合わせた過ごし方出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容を設けている。本人の意向に合わせた清潔感のある身だしなみが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し時にはその方々に合わせた献立に変更することもある。準備や片付けなども楽しみながら参加出来るようにしている。又外食の機会も設けている。	食材業者から仕入れているが、調理は職員が行い、利用者も食器拭きなどを手伝っている。時には、利用者の希望をメニューに取り入れ、中庭で流しそうめんをしたり、手作り弁当持参でお花見や外食をするなど、食事が楽しくなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を記録に残しており一人ひとりの状態を把握し、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し個人の口腔内の状態を把握して清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するように努めトイレ誘導を行っている。レベルの低下にならないように夜間はおむつをしようしている利用者も日中はリハパンを使用しその方に合わせた自立を支援している。	トイレで排泄できるよう、さりげない声かけに努めている。リハビリパンツとパッドを併用し、タイミングをみてトイレ誘導をするなど自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含む食物の工夫や適切な水分摂取を促し、毎日の適度な運動や散歩等への働きかけを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週2回の入浴日を決めているが、一人ひとりの体調や要望に応じていつでも入浴出来るように支援している。	浴室は清潔で、週2回は入浴できるようにしている。職員と会話を楽しみながら自分で洗えるところは洗ってもらうなど、自立支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し日中は出来るだけ体操やレク等で体を動かし生活のリズムを作り安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、服薬管理表により薬の内容が把握できるようにしている。又服薬チェック表にて誤薬防止に努め内服後の症状の変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を把握し、自己の得意分野で力を活かし役割を果たす事により、張り合いや喜びを得る事で楽しみや気分転換に繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に初詣、お花見、祭り等家族や地域の方々に橋渡しして頂き実施している。又利用者の行きたい店での外食や買い物等できるだけ戸外に出掛けられる様に支援している。	天候のよい日は、近所の公園などへの散歩に出たり、初詣や花見会、外食なども継続して行っている。家族の協力でお墓参りや外泊をする利用者もいる。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談し本人の希望の応じてお金を所持し買い物等に行った際、自分で支払いを行える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じてその都度家族や大切な人に連絡が取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下等には利用者の作品やレク行きの写真を貼り、季節毎の花を飾るなどして家庭的な温かみのある環境を重視し居心地よく過ごせる様に工夫をしている。	共用空間は床暖房で快適である。リビングは広くはないが、利用者の作品や手作りカレンダーなどを飾り、食事の時は音楽を流すなど、居心地がよさそうである。廊下には手すりが設置されており、歩行訓練も安全に実施できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席など気の合う利用者同士で自由に過ごせる様な環境作りをしている。又孤立する利用者が出ないように常に職員は、気を配り一人ひとりが心地よく過ごせる様に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品、又写真を飾るなど思い出の品を活かし、本人が居心地よく過ごせる様に工夫をしている。	居室内は、ベッドと大きなクロゼットが設置しており、掃除が行き届いている。自宅から持参したテレビや机など馴染みの家具を置いて、利用者が落ち着ける場所となっていることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況を考え、使いやすさ・分かりやすさに配慮し、廊下には手すりを設置し出来るだけ自立した生活が安全に送れるよう工夫している。		